

## 職業実践専門課程の基本情報について

学 校 名	設置認可年月日	校 長 名	所 在 地			
大阪ペピイ動物看護 専門学校	平成12年3月30日	澄田 新	〒537-0025 大阪府大阪市東成区中道3-8-15 (電話) 06-6978-3022			
設 置 者 名	設立認可年月日	代 表 者 名	所 在 地			
学校法人宮崎学園	平成12年3月30日	理事長 宮崎 安弘	〒537-0025 大阪府大阪市東成区中道3-8-15 (電話) 06-6978-3022			
目 的	スクールモットーである「慮る」ことを基本として、企業等と連携したインターン実習を含む豊富な実習・演習授業により、動物看護に関する実践的かつ専門的知識と技術、コミュニケーション力を備えた動物看護師を育成することによって、動物の健康の保持・増進と病気の予防・治療及び動物福祉、公衆衛生の向上に寄与し、人と動物の調和のとれた社会創りに貢献することを目的とする。					
分野	課程名	学科名	修業年限 (昼、夜別)	全課程の修了に 必要な総授業時 数又は総単位数	専門士の付与	高度専門士の付与
文化教養	専門課程	動物看護福祉学 科	3年(昼)	2590単位時間 (又は単位)	平成23年文部科学省 告示第百六十六号	—
教育課程	講義	演習	実験	実習	実技	
	1702単位時間 (又は単位)	510単位時間 (又は単位)	単位時間 (又は単位)	1268単位時間 (又は単位)	単位時間 (又は単位)	
生徒総定員	生徒実員	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
120人	108人	10人	25人	35人		
学期制度	■前期：4月1日～9月30日 ■後期：10月1日～3月31日			成績評価	■成績表 (有・無) ■成績評価の基準・方法について 授業科目の成績評価は、学年末において、各学期末に行う試験、実習の成果、履修状況等を総合的に勘案して行う。	
長期休み	■学年始め：4月1日 ■夏 季：7月25日～9月4日 ■冬 季：12月24日～1月8日 ■春 季：3月8日～4月4日 ■学 年 末：3月31日			卒業・進級条件	卒業までに履修させる授業時数は、2590時間以上とする。  進級判定時の取得単位が所定の単位数に達しているもの。かつ、飼育実習総合演習の単位を取得しているもの。	
生徒指導	■クラス担任制 (有・無) ■長期欠席者への指導等の対応  クラス担任が定期的に学生及び保護者と連絡を取り、学生の状況を把握し、状況に応じて個別面談を行うとともに、保護者や学年主任、教務部長、スクールカウンセラー等と連携してサポートし、3者面談において学生の意思を尊重した進路決定のサポートを行っている。			課外活動	■課外活動の種類  ■サークル活動 (有・無)	

<b>就職等の状況</b>	<b>■主な就職先、業界等</b> <b>動物病院</b> (就職者の100%が動物病院に就職) <b>■就職率<sup>※1</sup></b> 100% <b>■卒業者に占める就職者の割合<sup>※2</sup></b> 96.9% <b>■その他 (任意)</b> (平成27年度卒業者に関する平成28年3月時点の 情報)	<b>主な資格・検定</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・認定動物看護師 (動物看護師統一認定機構認定)</li> <li>・トリマー・ドッグトレーナー資格 (日本動物専門学校協会認定)</li> <li>・ペット栄養管理士 (日本ペット栄養学会認定)</li> <li>・マイクロソフトオフィス スペシャリストWord・Excel (マイクロソフト認定)</li> <li>・動物愛護社会化検定 (動物愛護社会化推進協会認定)</li> </ul>
<b>中途退学の現状</b>	<b>■中途退学者 3名 ■中退率 2.9%</b> 平成27年4月 1日在学者 102名 (平成27年 4月入学者を含む) 平成28年3月31日在学者 99名 (平成28年 3月卒業生を含む) <b>■中途退学の主な理由</b> 進路変更、病気・けが、学業不振 <b>■中退防止のための取組</b> クラス担任が定期的に個人面談を行うことによって、学生の状態を把握するとともに、授業を連続して欠席する学生には随時個人面談を行っている。必要に応じて保護者やスクールカウンセラー等と連携して、学生が中途退学する前に、その原因を解決する体制をとっている。また、学業不振者には、クラス担任や授業担当教員が補習を行うなどのサポートを行っている。	
<b>ホームページ</b>	URL: <a href="http://www.peppy.ac.jp/">http://www.peppy.ac.jp/</a>	

※1 「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職（内定）状況調査」の定義による。

- ① 「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものとする。
- ② 「就職率」における「就職者」とは、正規の職員（1年以上の非正規の職員として就職した者を含む）として最終的に就職した者（企業等から採用通知などが出された者）をいう。
- ③ 「就職率」における「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含まない。

※ 「就職（内定）状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等としている。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除いている。

※2 「学校基本調査」の定義による。

全卒業生数のうち就職者総数の占める割合をいう。

「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいう。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしない（就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う。）

## 1. 教育課程の編成

### (教育課程の編成における企業等との連携に関する基本方針)

本校では、教育課程の編成と就職決定者の95%（平成23年度から平成25年度の3年間実績）が就職する動物病院における獣医療や動物看護に関する動向や本校の動物看護師養成教育に対する要請等を把握することを目的として「教育課程編成委員会規程」「運営会議規程」を定め、地元の公益社団法人大阪府獣医師会、公益社団法人大阪市獣医師会、農林水産省認可の全日本獣医師協同組合（以下、「組合」という。）、動物病院、動物関連企業、動物関連団体、校長、副校長、事務局長等により教育課程編成委員会（以下、「委員会」という。）を設置する。委員会で受けた助言・提言を、校長や副校長、教務部長、事務局長等によって構成される本校運営会議において教育課程の編成に反映させ、実践的な動物看護師養成教育を推進することを基本方針とする。

### (教育課程編成委員会等の全委員の名簿)

平成28年5月1日現在

名 前	所 属
細井戸 大成	大阪市獣医師会 会長
会亀 昭夫	全日本獣医師協同組合 理事長
西澤 亮治	特定非営利活動法人 動物愛護社会化推進協会 事務局長
光山 智行	今里動物病院 院長
川田 睦	株式会社ネオベッツ 代表取締役(ネオベッツVRセンター代表)
澄田 新	大阪ペピイ動物看護専門学校 学校長
浅井 知香	大阪ペピイ動物看護専門学校 教務委員長
深田 恒夫	大阪ペピイ動物看護専門学校 学術顧問
永井 正三	大阪ペピイ動物看護専門学校 事務局長

### (開催日時)

第1回 平成27年9月3日 17:00～18:00

第2回 平成28年3月3日 17:00～18:00

## 2. 主な実習・演習等

### (実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針)

動物看護師を養成する専修学校として、動物看護に関する専門的知識と技術を習得するために、①動物病院の獣医師や企業・施設等のトリマーやプログラマーと講師契約を締結し、本校の教育内容や授業計画・目標、授業方法等に対する要請や意見等を反映させた教育課程を編成することによって、専門的・実践的職業教育を提供する。②校内で学んだ専門的知識と技術を動物病院において活用し、実践力とコミュニケーション力を養成し、今後の学習の課題を設定する機会として、校外の協力動物病院において全学生が「総合臨床実習(インターン実習)」に取り組む。③株式会社ネオベッツと講師契約を締結し、動物外科看護と高度動物医療を習得するために「動物外科看護学」を実施とすることを基本方針とする。

科 目 名	科 目 概 要	連 携 企 業 等
外科動物看護実習Ⅰ	基本的な外科手術の流れを理解し、手術準備、麻酔モニタリング、手術助手及び周術期の動物管理を身に付ける。また、手順や要領を考慮した行動から問題解決能力や看護実践能力を身に付ける。	大美野動物病院 ナイト動物病院
外科動物看護実習Ⅱ	外科動物看護実習Ⅰでの実践能力に応用力を用いて正確性、迅速性を身に付ける。	大美野動物病院 ナイト動物病院
動物外科看護学	外科処置を行うにあたり、知識・技術の向上をはかる。外科処置を行うにあたり、獣医師が適切で迅速な処置を行えるようサポートするための知識・技術を習得する。少人数でより実践的な手術実習を行う。	ネオベッツVRセンター

コンピュータ演習Ⅰ	Excel・Word・PowerPointの基本操作を身に付け、Excelによる複雑な集計処理、データベース処理や、Wordによる基礎的・応用的な文書作成能力や、PowerPointによる効率的なプレゼンテーションを作成・発表出来るようにするなど、社会人としての基本技術を身に付ける。	合資会社ケイアールケイ
コンピュータ演習Ⅱ	Excel・Word・PowerPointの基本操作を身に付け、Excelによる複雑な集計処理、データベース処理や、Wordによる基礎的・応用的な文書作成能力や、PowerPointによる効率的なプレゼンテーションを作成・発表出来るようにするなど、社会人としての基本技術を身に付ける。	合資会社ケイアールケイ
動物看護実習ⅠB	基礎で修得した知識の実践とし、診療現場に必要な観察力及び看護法に関する基本的手技を身に付ける。また、手順や要領を考慮した行動から問題解決能力や看護実践能力を身に付ける。(主にグルーミングについて学ぶ)	アルプス動物病院 ペットランドアミーゴ
動物看護実習Ⅱ	動物看護実習Ⅰでの実践能力に応用力を用いて正確性、迅速性を身に付ける。	アルプス動物病院 ペットランドアミーゴ
総合臨床実習	臨床現場での臨床経験からより実践的な看護と専門職としての意識を身に付ける。	アサヒペットクリニック本院 大阪動物医療センター 会亀動物病院 ネオベッツVRセンター 木村獣医科病院 他 全44ヵ所

### 3. 教員の研修等

#### (教員の研修等の基本方針)

本校では、獣医療と動物看護に関する専門的・実践的職業教育を提供するために、教員の実務に関する専門的知識と技術の向上及び授業や学生に対する指導力等の向上を目的とした「教育研修規程」を定め、教員を対象にした①企業等と連携した内部研修、②動物関連団体・動物看護師の職能団体・動物関連企業等の主催する学術大会や研修会、セミナー等の外部研修、③業務経験に応じた初任者研修・管理職研修を効果的に組み合わせて、学校として計画的に研修等を推進することを基本方針とする。

また、研修等の助成制度として「個人研究費規程」を定め、学校として教員の研究や学術大会、研修会、セミナー等への参加を積極的に推奨する。

#### 4. 学校関係者評価

(学校関係者評価委員会の全委員の名簿)

平成28年5月1日現在

名 前	所 属
細井戸 大成	大阪市獣医師会 会長
会亀 昭夫	全日本獣医師協同組合 理事長
小西 恭一	あぶの動物病院 院長
光山 智行	今里動物病院
西澤 亮治	特定非営利活動法人 動物愛護社会化推進協会 事務局長
平尾 泰久	新日本カレンダー株式会社 取締役
川田 篤司	大阪ペピイ動物看護専門学校 卒業生
岸本 貴行	大阪ペピイ動物看護専門学校 在校生保護者

(学校関係者評価結果の公表方法)

URL: <http://www.peppy.ac.jp/>

#### 5. 情報提供

(情報提供の方法)

URL: <http://www.peppy.ac.jp/>

授業科目等の概要

(文化教養専門課程 動物看護福祉学科) 平成 27 年度										
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法		
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技
○			総合演習Ⅰ	校内清掃・補講授業を通じ、チームワークと慮りを身につける。また、社会人を意識した自己管理及びチームワークと慮りを実践する。	1通	72		○		
○			総合演習Ⅱ	校内清掃・補講授業を通じ、チームワークと慮りを身につける。また、社会人を意識した自己管理及びチームワークと慮りを実践する。	2通	72		○		
○			総合演習Ⅲ	校内清掃・補講授業を通じ、チームワークと慮りを身につける。また、社会人を意識した自己管理及びチームワークと慮りを実践する。	3通	120		○		
○			動物飼育実習Ⅰ	実際に動物を世話することで動物看護に必要な観察力と動物福祉の精神を養う。また衛生管理、備品管理、基本的な動物のハンドリングを身に付けトレーニングに活かす。さらに手順や要領を考慮した行動から問題解決能力や看護実践能力を身に付ける。	1通	72			○	
○			動物飼育実習Ⅱ	実際に動物を世話することで動物看護に必要な観察力と動物福祉の精神を養う。また衛生管理、備品管理、基本的な動物のハンドリングを身に付けトレーニングに活かす。さらに手順や要領を考慮した行動から問題解決能力や看護実践能力を身に付ける。	2通	72			○	
○			動物飼育実習Ⅲ	実際に動物を世話することで動物看護に必要な観察力と動物福祉の精神を養う。また衛生管理、備品管理、基本的な動物のハンドリングを身に付けトレーニングに活かす。さらに手順や要領を考慮した行動から問題解決能力や看護実践能力を身に付ける。	3通	44			○	
○			総合臨床実習	臨床現場での臨床経験からより実践的な看護と専門職としての意識を身に付ける。	3通	160			○	
○			集中授業	動物関連施設の実習で動物福祉の精神を養う。3年次の授業に向けて知識を補う。	2通	100		○		
○			卒業制作	今まで学んだ動物福祉の概念から、自身ができる動物福祉とはどのようなものか、そのために何ができるのかなど動物福祉を思案し将来に活かす。	3通	60		○		

○	院内コミュニケーションⅠ	動物関連業界に適した思いやりを基本とし、受付業務、院内コミュニケーション、電話対応を身に付ける。	1通	36			○	
○	院内コミュニケーションⅡ	動物関連業界に適した思いやりを基本とし、受付業務、院内コミュニケーション、電話対応を身に付ける。	2通	36			○	
○	総合学習	動物看護の専門科目授業を理解するうえで必要な計算能力、また動物看護師として動物病院で働くうえで必要な計算能力を身に付けることを目標にする。	1通	18			○	
○	コンピュータ演習Ⅰ	Excel・Word・PowerPointの基本操作を身に付け、Excelによる複雑な集計処理、データベース処理や、Wordによる基礎的・応用的な文書作成能力や、PowerPointによる効率的なプレゼンテーションを作成・発表出来るようにするなど、社会人としての基本技術を身に付ける。	1通	72			○	
○	コンピュータ演習Ⅱ	Excel・Word・PowerPointの基本操作を身に付け、Excelによる複雑な集計処理、データベース処理や、Wordによる基礎的・応用的な文書作成能力や、PowerPointによる効率的なプレゼンテーションを作成・発表出来るようにするなど、社会人としての基本技術を身に付ける。	2通	72			○	
○	動物形態機能学Ⅰ	主に犬猫を中心にその他ウサギ、鳥類などの動物の体の構造、筋骨格系・呼吸器系・消化器系・循環器系・泌尿器系・内分泌系・神経及び感覚器系の機能を理解する。さらに解剖学用語を修得し生命現象を理解する。	1通	72			○	
○	動物形態機能学Ⅱ	主に犬猫を中心にその他ウサギ、鳥類などの動物の体の構造、筋骨格系・呼吸器系・消化器系・循環器系・泌尿器系・内分泌系・神経及び感覚器系の機能を理解する。さらに解剖学用語を修得し生命現象を理解する。	2通	72			○	
○	動物病理学Ⅰ	発病のメカニズムと病理学的特徴を理解する。	1前	18			○	
○	動物病理学Ⅱ	発病のメカニズムと病理学的特徴を理解する。	2前	18			○	
○	動物疾病看護学Ⅰ	主に犬猫のバイタルサインと病的変化を理解する。さらに主な疾患の機序及び症状、検査法、治療法を理解し看護に活かす。	1通	72			○	
○	動物疾病看護学Ⅱ	主に犬猫のバイタルサインと病的変化を理解する。さらに主な疾患の機序及び症状、検査法、治療法を理解し看護に活かす。	2通	72			○	

○	動物薬理学	薬の作用機序と有害作用並びに獣医療現場で使用される主な薬剤の特性を理解し、薬剤を正しく取り扱えることを目指す。	2通	36	○		
○	動物感染症学 A	主に犬猫に感染する内部寄生虫、外部寄生虫及び微生物について理解し、予防と看護に活かす。(主に寄生虫)	1通	36	○		
○	動物感染症学 B	主に犬猫に感染する内部寄生虫、外部寄生虫及び微生物について理解し、予防と看護に活かす。(主に微生物)	1後	18	○		
○	病原体・衛生管理 I	病原体になりうる微生物の感染予防法を理解し、動物の健康維持に努める。	1後	18	○		
○	病原体・衛生管理 II	病原体になりうる微生物の感染予防法を理解し、動物の健康維持に努める。	2前	9	○		
○	公衆衛生学	公衆衛生の基本的な考え方を理解し、国民の健康増進、動物福祉、環境保全等に活かせる知識を身に付ける。	2通	27	○		
○	動物健康管理	健全な犬猫に必要な日常ケアと適正飼育方法について理解し、個体に合った適正飼育に努めるよう飼主指導ができる。	1前	18	○		
○	動物栄養学 I	基礎栄養素及び主に犬猫に必要な栄養素、ペットフードの基本的知識と特別療法食の特性など個体に合った適切な食事管理についての知識を身に付ける。また、ペットフードの市場について考察する。	1通	36	○		
○	動物栄養学 II	基礎栄養素及び主に犬猫に必要な栄養素、ペットフードの基本的知識と特別療法食の特性など個体に合った適切な食事管理についての知識を身に付ける。また、ペットフードの市場について考察する。	2通	36	○		
○	臨床栄養学	基礎・応用栄養学を踏まえて、栄養について多様な知識を深める。 犬・猫以外の動物（ウサギ）の栄養学や食べ物のもつ性質や特徴を学びフードアドバイザーとして飼い主指導に役立つ知識を身に付ける。また手作りフードの栄養不良や危険性について学び考える。	3前	15	○		
○	動物医療関連法規	主に獣医療現場及び動物関連の法規について理解を深め、動物福祉と安全な社会づくりに貢献し専門職として遵守の精神を養う。また、社会人として知っておくべき法規について認識する。	3通	30	○		
○	動物繁殖学	主に犬猫の繁殖生理を理解し、性行動、妊娠、分娩及び避妊、去勢の知識を身に付け、助産と性別疾病予防について飼主指導に活かす。また犬猫以外の動物の繁殖生理の特徴を知る。	1後	18	○		

○	動物人間関係学Ⅰ	二兎と動物の絆（HAB）の理念と動物介在活動、動物介在療法、動物介在教育など社会活動を理解し、人と動物の共生に寄与する。	1 後	18	○			
○	動物人間関係学Ⅱ	二兎と動物の絆（HAB）の理念と動物介在活動、動物介在療法、動物介在教育など社会活動を理解し、人と動物の共生に寄与する。	3 前	15	○			
○	動物福祉論Ⅰ	生命倫理を基本に人と動物が共生するために必要な倫理学の理念を身に付ける。	1 前	18	○			
○	動物福祉論Ⅱ	生命倫理を基本に人と動物が共生するために必要な倫理学の理念を身に付ける。	3 前	15	○			
○	動物行動学Ⅰ	主に犬猫の発生起源、種類による特徴を知り、基本的行動様式から適正飼育と正しいハンドリング及び基本的なしつけを理解し、看護と飼主指導に活かす。	1 通	36	○			
○	動物行動学Ⅱ	主に犬猫の発生起源、種類による特徴を知り、基本的行動様式から適正飼育と正しいハンドリング及び基本的なしつけを理解し、看護と飼主指導に活かす。	2 後	18	○			
○	動物行動学Ⅲ	動物福祉の原点である動物の 5 つの権利に照らし合わせて、動物行動学を使った犬の飼い方についての知識を得る。 動物の 5 つの権利に沿った暮らし方を飼主にアドバイスができるようにする。 習得した知識を基に復習を兼ねながら実践を取り入れて行う。知識だけではなく実際に体得できるようにする。	3 通	60	○			
○	飼養管理学Ⅰ	実験動物、産業動物、展示動物の社会的役割と目的及び野生動物と環境保全を理解し、動物福祉の観点から人と動物の共生に寄与する。また伴侶動物となり得るウサギ、小鳥、ハムスター、モルモット、フェレットについて生理と生態から適正飼育法及び主な疾病について理解し、看護と飼主指導に活かす。	2 通	36	○			
○	飼養管理学Ⅱ	実験動物、産業動物、展示動物の社会的役割と目的及び野生動物と環境保全を理解し、動物福祉の観点から人と動物の共生に寄与する。また伴侶動物となり得るウサギ、小鳥、ハムスター、モルモット、フェレットについて生理と生態から適正飼育法及び主な疾病について理解し、看護と飼主指導に活かす。	1 通	36	○			

○	動物看護学	チーム医療に基づいた専門職としての看護倫理、業務指針から、動物及び飼主に寄り添った動物看護実践能力と問題解決能力を身に付ける。	1 前	18	○			
○	臨床動物看護学Ⅰ	各疾病による身体的・精神的状況から適切な看護法を考察する。	1 後	18	○			
○	臨床動物看護学Ⅱ	各疾病による身体的・精神的状況から適切な看護法を考察する。	2 通	72	○			
○	動物入院管理Ⅰ	個体別及び疾患別に応じた看護力を身に付け飼主指導に活かす。	1 後	18	○			
○	動物入院管理Ⅱ	個体別及び疾患別に応じた看護力を身に付け飼主指導に活かす。	2 前	9	○			
○	幼齢動物・老齢動物管理Ⅰ	主に犬猫の新生子期から幼年期の管理について理解し予防と看護に活かす。また老齢動物の管理、介護を理解し飼主に寄り添った在宅看護に活かす。	2 前	9	○			
○	幼齢動物・老齢動物管理Ⅱ	主に犬猫の新生子期から幼年期の管理について理解し予防と看護に活かす。また老齢動物の管理、介護を理解し飼主に寄り添った在宅看護に活かす。	2 後	18	○			
○	動物臨床検査学Ⅰ	検体を用いる検査と生体検査の目的と意義を理解し手技に活かす。	1 前	18	○			
○	動物臨床検査学Ⅱ	検体を用いる検査と生体検査の目的と意義を理解し手技に活かす。	2 前	18	○			
○	救急救命対応	エマージェンシーの見極めとトリアージを理解し救急救命に活かす。	3 後	15	○			
○	クライアントエデュケーション	人と動物のより良い共生を目指し、専門職の観点から飼主指導に活かす。	2 通	36	○			
○	動物看護実習ⅠA	基礎で修得した知識の実践とし、診療現場に必要な観察力及び看護法に関する基本的手技を身に付ける。また、手順や要領を考慮した行動から問題解決能力や看護実践能力を身に付ける。	1 通	72				○
○	動物看護実習ⅠB	基礎で修得した知識の実践とし、診療現場に必要な観察力及び看護法に関する基本的手技を身に付ける。また、手順や要領を考慮した行動から問題解決能力や看護実践能力を身に付ける。(主にグルーミングについて学ぶ)	1 通	144				○

	○		動物看護実習Ⅱ	動物看護実習Ⅰでの実践能力に応用力を用いて正確性、迅速性を身に付ける。	2通	72					○
	○		動物臨床検査学実習Ⅰ	基礎で修得した知識の実践とし、診療現場に必要な検体検査及び生体検査に関する意義を理解し基本的手技を身に付ける。また手順や要領を考慮した行動から問題解決能力や看護実践能力を身に付ける。また、実践能力に応用力を用いて正確性、迅速性を身に付ける。	1通	108					○
	○		動物臨床検査学実習Ⅱ	基礎で修得した知識の実践とし、診療現場に必要な検体検査及び生体検査に関する意義を理解し基本的手技を身に付ける。また手順や要領を考慮した行動から問題解決能力や看護実践能力を身に付ける。また、実践能力に応用力を用いて正確性、迅速性を身に付ける。	2通	108					○
	○		外科動物看護実習Ⅰ	基本的な外科手術の流れを理解し、手術準備、麻酔モニタリング、手術助手及び周術期の動物管理を身に付ける。また、手順や要領を考慮した行動から問題解決能力や看護実践能力を身に付ける。	2前	36					○
	○		外科動物看護実習Ⅱ	外科動物看護実習Ⅰでの実践能力に応用力を用いて正確性、迅速性を身に付ける。	2後	54					○
	○		検査技術	1、2年時で行った検査実習での手技を復習し、検査の確実性と理解度を高める。また、検査実習より応用的な知識も講義、実習する。現場に側した内容の実習を心がけ個人の責任を持って検査を行い、結果に自信と責任を持たせることを目標とする。臨床現場での動物看護師の仕事に含まれる、在庫管理に意識を向けられるようになる。	3通	60					○
	○		看護技術	1・2年次で学んだ看護実習の技術の定着を目標とし、より実践を意識した内容を理解する。	3通	60			○		
	○		動物福祉ケア	・学内にてTタッチやペットマッサージなど動物福祉に配慮した様々な手法を演習形式で学ぶ。 ・学外実習では①動物管理センターの実習を通じて保護・譲渡事業の現状を学ぶ②VRセンターにて高度医療の現状を学ぶ	3後	30			△	○	

○	エキゾチック アニマル	①今まで学習した小鳥、ウサギ、ハムスター、モルモット、フェレットの飼育および疾病予防について飼育主指導ができる。 ②臨床現場で見られる爬虫類・両生類について主な種類と生態、飼育法について説明できる。 ③臨床現場で見られる爬虫類・両生類の飼育および疾病予防について飼育主指導ができる。	3 後	15	○			
○	受付業務	コミュニケーションのスキルアップ、より実践的な受付業務知識を得る 動物診療現場における、クライアント／スタッフとの状況に応じたコミュニケーションの習得、受付で発生する飼育主対応、接遇の習得	3 前	15	○	△		
○	外科看護	外科処置を行うにあたり、知識・技術の向上をはかる。 外科処置を行うにあたり、獣医師が適切で迅速な処置を行えるようサポートするための知識・技術を習得する。より実践的な手術実習を行う。	3 前	30	○			
○	動物外科看護 学	外科処置を行うにあたり、知識・技術の向上をはかる。 外科処置を行うにあたり、獣医師が適切で迅速な処置を行えるようサポートするための知識・技術を習得する。少人数でより実践的な手術実習を行う。	3 後	30				○
○	疾患別看護	動物病院における動物看護師として必要な内科看護業務・周術期の知識を学ぶ 到達目標として薬用量の計算、特に輸液準備に必要な計算をマスターする。次に薬学で学んだ薬剤で特に汎用する薬剤について理解し、入院患者の管理の際の注意点を学ぶ。 外科的療法として、麻酔をかける際の一連の流れを復習する。 口腔解剖生理及び口腔内疾患の早期発見と口腔内ケアに必要な知識 2年次の動物歯科看護をもとに診療現場で実践的な知識を身につける	3 後	30	○			
○	飼主対応	動物福祉の充実のために必須なオーナーへの援助技術の習得 動物福祉の実践に必要なコミュニケーションについて学ぶ	3 前	30	○			

○	診療補助	診療補助業務を実施する上で、業務をスムーズに実施することは重要なことであり、このために対飼い主、対動物に対するコミュニケーション力を培うことが必須であることを認識する。演習課題に対する回答をクラス内で発表する、もしくは討議ができる理解度とコミュニケーション力の習得を目標とする	3 通	30	○			
○	動物理学療法 I	理学療法を実施する際に必要な基礎知識とそれに伴う解剖生理学について学習する。患者を評価する際の概念と障害の分類、また検査測定について理解する。患者動物の様子を観察し、状態を的確に捉えることができるための学習をする	2 通	32	○			
○	動物理学療法 A・B	理学療法を実践するにあたり、必要な解剖や運動学の知識について学習する。また、実際に犬を触って学習した内容を正しく理解する。その後、それらを踏まえて正しく検査測定の技術を学習し、習得する。理学療法を実践する際に必要な知識として、運動学、神経生理学、歩行の観察などについて理解する。理学療法の治療手技について学ぶ。ホームプログラムを含む治療プログラムの立案を考える 飼い主への説明を考える。疾患学を学ぶ。理学療法評価の基礎知識を学ぶ。物理療法の知識を付け、機械機器の正しい使用方法を理解する。	3 通	140	△		○	
○	アロマセラピー	ホリスティックアロマセラピーの基礎と定義を学ぶ。ホリスティックという補完療法の意味や、ストレスと神経の関わりを理解する。アロマセラピーの基礎と定義、歴史を学び、各精油の特性や危険性を学習する。また、特別授業として各種アロマの選択や、クリームの作成を行う。	2 後	15	○			
○	ドッグトレーニング	褒めてしつける陽性強化 ①初心者飼主レベルのトレーニングを身につける ②担当犬との信頼関係を築く ③信頼関係を築く為に愛情と根気が必要だと体得してもらう ④担当犬の問題行動に取組んでいく	2 通	36				○
○	試験対策	動物看護師統一認定試験に向け、過去問集を繰り返し学ぶことで出題傾向を知り、理解を深める。また、想定される試験問題の補講や模擬試験などにより、弱点を克服しながら理解を深めていく。	3 通	30	○			
○	グルーミング実習	ワンちゃんに負担のないグルーミング。学生自らワンちゃんの接し方、グルーミングの最良の進め方を考えてもらう。	3 通	60				○

○	キャリアデザイン	充実した学校生活の送り方や自己分析や就職活動時の履歴書の書き方、動物病院見学時のマナー等を学ぶ。また、社会人として必要となる基礎力も身につける。	1 2 3 通	25	○		
○	課外授業Ⅰ	学外及び学内での特別授業で様々な知識を学び見聞を広げ社会貢献に活かす。また、学校行事を通じて、チームワークと慮りを身につける。	1 通	30	○		
○	課外授業Ⅱ	学外及び学内での特別授業で様々な知識を学び見聞を広げ社会貢献に活かす。また、学校行事を通じて、チームワークと慮りを身につける。	2 通	30	○		
○	特別授業	学外及び学内での特別授業で様々な知識を学び見聞を広げ社会貢献に活かす。また、学校行事を通じて、チームワークと慮りを身につける。	3 通	30	○		
合計			79 科目	3476 単位時間 (	単位)		